

平成 30 年度 事業計画

学校法人 大妻学院

【大妻学院のミッション】

学祖大妻コタカの建学の精神を、新しい時代の文脈の中で、組織的に教育・研究・地域活動に活かすことにより、豊かな教養と思いやりの心をもち合わせた、真に自立した女性を育成し、社会関係資本の充実を図ることで、健全で持続可能な社会の実現に貢献する。

【大妻学院の教育目標】

- 大学（大学院及び短期大学部を含む）
 - 1 総合的な人間教育により社会の構成員として自覚と識見を有する人材の育成
 - 2 中核的な指導的役割を果たすことができる専門職業人女性の育成
 - 3 女子高等教育の後継者の育成
 - 4 地域との連携において指導的役割を果たせる人材の育成
- 中学高等学校
 - 1 人間性が豊かで自立可能な女性の育成
 - 2 社会をリードできる女性リーダーとしての素養の養成
 - 3 知的好奇心を醸成し視野の広い洞察力を有する女性の育成
 - 4 自己管理能力を高め互いに尊重しあえる女性の育成

【大妻学院の経営指針】

- 主に大学（大学院及び短期大学部を含む）
 - 1 大学院・学部・短大・附置研の教育組織に関する不断の見直し
 - 2 学部・学科・専攻・事務部門の連携強化及び学士力の確保
 - 3 全学的なカリキュラム連携の推進
 - 4 組織的な学生支援体制の強化及び学生サービスの改善
 - 5 附置研究所の機能強化及び外部資金の積極的な獲得
- 主に中学高等学校
 - 1 進学型中高一貫校としての地位確立
 - 2 中高と大学との連携
- 学院全体
 - 1 社会的責任
 - 2 国際交流の活性化
 - 3 法人組織の管理運営体制の見直し
 - 4 財政のさらなる健全化

【平成30年度の事業計画】

I 大学関係(大学院及び短期大学部を含む)

1. 大学等教育組織改革

- ①大学院人間文化研究科人間生活科学専攻（修士課程）「児童発達臨床学専修」を、専攻内での専門教育の内容を明確にするため、平成30年度入学生より「保育・教育学専修」へ名称変更する。
- ②平成30年度入学生より、人間関係学部人間福祉学科の2専攻（「人間福祉学専攻」「介護福祉学専攻」）を廃止し、各養成課程を選択可能な1学科体制とする。
- ③実際に教育研究を行っている内容を明確に表現するため、文学部「英文学科」の名称を平成31年度入学生より「英語英文学科」に変更する準備を進める。
- ④保育士、幼稚園教諭養成についてのニーズを考慮し、平成31年度入学生より家政学部児童学科児童学専攻の定員を30名増の80名へと変更、またそれに伴い児童教育専攻及び他の学部学科の3年次編入学定員の削減の準備をする。

2. 全学及び学部等の教育カリキュラムの改善

- ①人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻および大学院人間文化研究科臨床心理学専攻において、平成30年度入学生から、公認心理師国家試験の受験資格取得に必要な科目を追加した新カリキュラムを開始する。
- ②全学教育科目である「キャリアデザインⅠ」、「同Ⅱ」、「同Ⅲ」を通して、1年次から体系的なキャリア教育を実施していく。
- ③外部の企業や組織とタイアップする全学教育科目である「キャリア・デベロップメント・プログラム」を通して、より実践的なキャリア教育を実施していく。

3. 組織的な学生支援・就職支援体制の強化及び学生サービスの改善

- ①既存の教務システム、出席管理システム、シラバスシステム、保証人用webシステムを統合・更新する形で、平成30年度より新事務システム（GAKUEN／UNIVERSAL PASSPORT）を導入し、学生支援体制の強化を図る。
- ②豊富なカリキュラムを用意する正課外の講座である「大妻マネジメントアカデミー」を通して、産業構造や社会構造の変化に対応する力を育成し就職につなげていく。
- ③低学年から就職をイメージできるように、インターンシップ受入企業や組織の拡充に努め、就業・職場体験の機会を積極的に用意していく。
- ④低学年のうちから就職活動に向けたマインドを醸成すべく、履歴書の書き方やビジネスマナーに関することなど、就職に関連する講座やガイダンスを用意していく。
- ⑤OG懇談会の実施やOG訪問の案内などOGの協力の下、卒業後のキャリアプランやライフスタイルについて意識付けできる機会を用意する。
- ⑥学生が万全の準備態勢で就職活動に臨めるよう、効果的・効率的な就職支援プログラムを実施していく。
- ⑦多様な学生からの相談に対し、就職活動を通して学生の主体性を助長し、一人でも多くの学生が希望の職に就けるような窓口相談及び求人紹介を行う。
- ⑧秋以降、未内定者に対して個別に求人を紹介し、卒業までに内定が取れるよう、きめ細やかに支援していく。
- ⑨新規求人の獲得及び企業開拓に向け、企業との情報交換会に積極的に参加し、個別に企業訪問も行う。
- ⑩千代田キャンパス・多摩キャンパスでの課外活動を学生が主体となって活発に行えるように課外活動への支援を行う。また、課外活動団体の代表学生等を対象とした研修会を継続開催することで、リーダーシップを発揮するために何が必要か考える場を提供しリーダーの育成を行う。

- ⑪安心して勉学に励むことができるよう経済的支援として日本学生支援機構奨学金のほか、本学独自の奨学金や他団体の奨学金を活用し、学業継続のための支援の実施と充実に努める。
- ⑫学生寮（加賀寮・久我山寮）を寮監指導の下の単なる生活の場ではなく、人材育成の場へ高めることを目的として寮監と寮生が連携しながら様々な取り組みやイベントの企画・実施をすることで学生寮内の活性化を図る。また、留学生との異文化交流を促し、多様性を持った寮内のコミュニティ創生に努める。

4. 社会のグローバル化の進展に対する大妻女子大学らしい対応

- ①1人でも多くの学生が海外留学できるよう、学生や社会のニーズに合致した多様な海外研修・留学プログラムの開発と実施
- ②他の大学にはない大妻女子大学らしい海外研修・留学プログラムの新規開発
- ③「①、②の実現」のため、優れた教育プログラムを持ち、同時に日本人留学生の受入体制が整った海外協定校の開拓
- ④海外研修・留学プログラムの事前事後研修の充実と、海外での事件事故に対する全学的な危機管理体制の構築
- ⑤海外研修・留学プログラムに参加できない学生に対する代替研修の学内実施
- ⑥より多くの留学生（特別聴講生）を受け入れるための教育プログラム（日本語・日本事情等）の充実、および学生支援体制の強化
- ⑦留学生と日本人学生の交流機会の充実
- ⑧受入留学生に対する災害時の危機管理体制の構築
- ⑨派遣・受入留学生に対する経済的援助の充実

5. 学生募集広報と入試システムの改善

- ①Web出願システム導入など近年の大学入試動向や、平成33年度入試（2020年度実施）からの大学入学者選抜改革を見据え、段階的に入試システムの改修を行う。なお、追跡調査資料（入試区分毎に入学後の学業成績等を一覧表集計した資料）は平成30年度から業務委託業者を変更。
- ②魅力的な学生募集広報と更なる受験生の確保のため、「千代田キャンパス再開発プロジェクト」の完了に伴う千代田キャンパスの歴史・発展をめぐまれた環境とあわせ、更にアピールしていく。また、当初、人間関係学部のみとなる多摩キャンパスの活性化に繋がるよう、人間関係学部の新しい学びについて効果的な情報発信を行う。なお、実出願者確保のため、例年実施している広報を精査し、新たな広報手段も積極的に展開する。

6. 教育設備及び学生生活環境の充実

- (1) 千代田校、多摩校ともに学生の教育設備の充実とキャンパスアメニティ向上のため以下の事業を行う。
 - ①千代田 学生数増加等に伴う家具等追加設置
 - ②千代田 大学校舎電気室（A棟B1階）受電盤更新工事
 - ③千代田 大学校舎B棟632・631・643・642・745・743調理実習室ガス台改修工事
 - ④千代田 大学校舎C棟370・373情報処理教室 機器更新
 - ⑤千代田 図書館棟AV・情報メディアルーム 機器更新
 - ⑥多摩 4号館情報処理自習室 機器更新
 - ⑦多摩 6号館3階 改修工事
 - ⑧千代田・多摩 平成30年度無線LAN導入
- (2) 千代田校ではC棟情報処理教室2教室の施設設備更新を実施する。また、学生の学習環境向上のため、図書館地下1階AV・情報メディアルームの機器更新を実施する。学生の利用ニーズに合わせて機器の内容、構成等を調整し、利便性を高める。

- (3) 多摩校では情報処理自習室の施設設備更新を実施する。また、4号館3階および6号館3階に無線LANを導入し、各教室や学生ホール等から個人用PCやモバイル端末でのインターネット利用ができるよう学生の利便性を高める。
- (4) 教育系ファイルサーバの一元管理という観点から全学対象の教育系ファイルサーバだけでなく社会情報学部ファイルサーバ構築を行うなど教育に関わるデータの保管・管理に関する利便性向上や円滑なデータ共有の支援を行う。

7. 地域連携の推進と社会貢献事業の充実

(1) 地域連携推進センターの事業計画

- ①地域社会と連携し地域の活性化につながる活動、学生が参加することで主体性や自立心が身に付く活動の一層の推進と発展を図ることを目的に、地域連携プロジェクト活動の支援（約12件）
- ②広く地域の方々へ本学の教育と研究成果を還元し、多様なニーズに応えるとともに、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的に、地域貢献活動の支援（約6件）
- ③「私立大学等改革総合支援事業」の観点を考慮し、地域連携推進センター自主企画の実施

(2) 大妻女子大学博物館の事業計画

- ①常設展「大妻コタカと大妻教育」
- ②特別展
 - ・大妻女子大学日本文学関係貴重書展示
 - ・人間生活文化研究所と共同展示
- ③大妻学院創立110周年記念企画展示
- ④収蔵品の保存維持管理
- ⑤大妻コタカ・大妻良馬研究所における、大妻コタカ先生及び大妻良馬先生に関する調査

II 中高関係

大妻中学高等学校

1. 学習指導

- ①質の高い授業を実践し、高い学力を身に着けさせる。
- ②入学後に「学力を伸ばす学校」と称されるを目指し、客観的な試験数値スコアにも拘り、教員の研修、授業の質向上に向けた指導も強化する。
- ③新たな入試制度に対応しうる、英語四技能、思考力、表現力育成する機会を増やす。

2. 進路指導

- ①自ら目標を掲げ、夢をあきらめずに追い求める生徒を育成する。
- ②「学ぶ」と「働く」ことをつながり、学びの目的意識を自らの将来と引き付けて考えていける機会を増やす。
- ③生き抜く上での選択しを増やすことにもつながる上位校合格に向けた丁寧な進路指導、戦略的な時間の使い方などの指導を強化する。

3. 生徒指導

- ①他者との協働、人への思いやりを育み社会性に富んだ生徒を育成する。
- ②目と手を離さず、見守るが、問題が起こっても、生徒間での自浄作用で問題解決できる環境を施す。

4. 特別活動

- ①創造力の発揮、自主性の尊重など、学校行事の時間を活かし、育成する。
- ②芸術鑑賞や特別講座などで、「本物」に触れさせ、感性を磨く経験を重んじる。

- ③大妻外の生徒からの刺激を受けられるような他流試合、コンクールへの参加を積極的に促す。

5. 組織体制

- ①中期学校計画、大妻ビジョン 50 を校内外に浸透させる。
- ②生徒、保護者が安心して任せられる担任構成。
- ③進路・グローバル部を新たに設置し、教務、学年、教科、入試広報等との連携をさらに深め、大妻の際立つ特徴、象徴を校外へ発信する。
- ④教員一人ひとりの資質、指導力を向上させるにあたり、校内での学びあい、外部からの刺激などこれまで以上に教員の学びの機会を増やす。
- ⑤進学実績向上のため、アドバイザーを雇用し、外部の知見を活かし、上位校合格を増やす。

6. 教育環境の充実

- ①新高1年以下、一人1台タブレットの導入
- ②小型教室整備（ゼミ室、取り出し授業などレベル別授業への備え）
- ③第2コンピュータ室機器入替
- ④生徒用タブレットの運用管理
- ⑤無線LAN設備・教室電子黒板・理科室IT機器・教員用PC等の保守
- ⑥中高8・9階空調設備更新

大妻多摩中学高等学校

1. 学習指導

- ①生徒の知的好奇心を刺激し、無理のない先取り教育により高い学力を身につけさせる。
- ②質の高い授業を実践することにより、入学時より学力を向上させ、生徒と保護者の満足度を上げる。
- ③2020年からの新大学入試に対応するために必要な思考力・判断力・表現力の指導を行う。

2. 大妻多摩6年プロジェクト

(1) 人間関係スキル・キャリア教育プロジェクト

良き社会人を育てるための教育活動として様々なプログラムを展開する。

- ①社会性・コミュニケーション能力を養う。
 - ・人間関係スキル①～⑤
 - ・人間関係スキル<発展>①, ②
 - ・SNSモラルマナー教育
 - ・ハンディキャップ体験
 - ・L a d y講座 など
- ②自分自身を理解する。
 - ・適性検査①～③
 - ・自分史
 - ・私の職業適性インタビュー など
- ③職業および社会・文化を理解する。
 - ・茶道教室①～③
 - ・職業調べ
 - ・校外研修（鎌倉）
 - ・修学旅行（京都・奈良）
 - ・勤労を考える会
 - ・歌舞伎鑑賞
 - ・職業ガイダンス など

(2) 英語・国際教育プロジェクト

新大学入試が求める英語4技能の育成と、未来の国際社会を見据えた6年間の英語・国際教育を継続。

- ①中学段階から6年一貫の国際プログラムに系統的に参加させることによって、国際的な視野を持った世界で活躍できる「骨太の」生徒を育てる。また、そこでの成功・失敗体験をもとに、より主体的・能動的に勉強できる人間力を養う。
- ②生徒の国際舞台で働くイメージを育てるとともに、海外大学・海外留学を含めた進路選択の幅を広げる。
- ③他校生との協働を含む多様なプログラムに参加させることによって、協働と協調の精神とともに逞しさを涵養する。

3. 高大連携改革に向けて「学校を変える」取組み

- ① 中学入試に理社合科型試験とプレゼンテーション試験を実施することにより、多様な能力をもつ生徒を募る。
- ② 定期考査の作問に記述・論述問題を増やし、新大学入試の探求型設問に対応できる能力を養う。
- ③ 高校1年生で「探究」の授業を実施し、「新しい学力」を養成する。
- ④ 各授業において発表（プレゼンテーション）の機会を増やすとともに、「主体的、対話的で深い学び」に向けた取り組みを全学で展開する。

4. 教員能力養成

- ① 内外での教員研修の充実。
- ② 教員一人ひとりの指導力を向上させるために、教科の枠にとらわれない協働的授業形態を検討し、教育力により入学者の学力向上を目指す。
- ③ 教員同士及び生徒による教員評価の実施。

5. 進路指導：難関国公立大学合格実績のさらなる向上

社会に貢献できる人材として、より高いレベルの学問を修得することを動機として進路指導を展開し、難関国公立大学をはじめ上位私立大学への進学実績をさらに向上させる。

- ① 高1、中3でハイレベル講習（3教科）を夏休みに実施（従前の継承）
- ② 勉強合宿のシステム化（高2冬、高3夏）
- ③ 進路指導室を改築・整備し、教員の大学研究・新大学入試制度研究を先導する。

6. 教育環境のさらなる充実と教育効果の向上

新図書館棟の完成に伴う学習環境のさらなる充実を受け、それらをより有効に活用することによって、教育効果の向上をめざす。

- ① 約5万冊の蔵書を有する新図書館を活用し、高校1年生の「探究」活動の充実をはかる。
- ② 教育の情報化の推進に向けて、電子黒板の導入とICTを活用した授業を行うことにより、思考力・判断力・表現力など大学入試制度で求められる「新しい学力」の習得をめざす。

7. 教育環境の充実

- ① コンピュータ教室リプレイス及びネットワーク設備再構築（第二次計画）
- ② 生徒用机椅子及び教室教卓交換
- ③ 教室壁面掲示板交換
- ④ 美術教室生徒の机の入れ替え
- ⑤ 職員室教員個人PCリプレイス

大妻中野中学高等学校

1. 「学力向上に向けて」

(1) 27年度から開始したグローバル人材育成の取り組みの充実を下記の通り推進する。

- ① 2020年の大学入試改革、指導要領改訂を先に見据え、知識習得から知識を知恵に変え自己実現できる力の育成を目指す。
- ② 21世紀型のアクティブラーニング授業を、さらに本校独自に開発したシステムで展開する。生徒が「自ら学ぶ姿勢」を中心におき、全ての教員が同レベルの質の高い授業を実現できるようにする。
- ③ 昨年に続き世界に通用する「実践的英語力」を目指した教育内容を深めると共に、その成果の検証から改善点を具体化する。
- ④ 自らの意欲を高める仕組みとして、英語4技能向上において、目標値を設定して各種検定の取得を達成させる。
- ⑤ 多様で質の高い授業展開を目指して、電子黒板・タブレットなどのICTを充分活用した指導法を更に開発し、研修に力を注ぐ。
- ⑥ 平成28年度から開設したグローバルリーダーズクラスに課された教育プログラムを計画

通りに推進し、達成目標値を遂行する。

- (2) 平成 30 年度中学入試における算数入学生受け入れの体制を充実させ、その一環としてプログラミング教育の準備、数学検定の目標値を設定し遂行していく。
- (3) 大学入試における生徒 1 人 1 人の進路実現の成功を、全学年横断態勢で共有協力し推進する。
 - ① 大学入試改革に備えて十分に研究し、先進的で的確な進路指導を進める。受験生が未来社会で活躍できる進路実現のための対応策を作成する。
 - ② 生徒 1 人 1 人の進路意識の向上の為に工夫を活発化させ、校内でその情報を共有しながらきめ細かい指導を行い、進路実現を確実なものへと導く。

2. 「生きる力育成に向けて」

- ① スーパーグローバルハイスクールの生徒像に求められる資質を全校で理解し、必要なスキルアップを確実に実践する。
- ② 将来社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」を徹底する。全教員による丁寧な対面教育を心がけ、全ての生徒が「あいさつ」「校内美化」「遅刻防止」の基本的生活習慣の基礎をしっかり身につけ、学力と人間力が繋がることを目指して指導する。
- ③ 道徳教育、キャリア教育、ピア・サポート学習は教則にのっとり全校でベクトルを統一する。「豊かな心」を養い、自他共に誇りをもてる学校づくりを目指す。
- ④ 教育活動において「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。

3. 「学校教育環境の整備と質向上に向けて」

- ① 常に前進する学校としてハード、ソフト両面で教育環境革新を怠らず、校内で共有すると共に、学外に向けた発信を活性化させる。
- ② 生徒の安全を守る為の防災・防犯体制の確認、検証を続ける。
- ③ 学校経営計画を策定し、学校評価を実施することを通して、学校の自律的な改善・改革と教育活動の質的向上を図る。
- ④ 「開かれた学校」を目指し、保護者、外部への情報公開を進めて、相互理解と連携を深める。
- ⑤ 組織的に広報発信と広聴に努め、地域懇談会を開いて地域との連携を深める。また、地域活動にも積極的に参加し、理解を深めることで本校の存在価値への支援を得る努力を積み重ねる。

4. 教育環境の充実

- ① スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校としての5ヶ年計画

大妻嵐山中学高等学校

1. 学力の向上

- ① 定期考査、外部模試、学力アセスメント等客観テストの分析とそれに基づいた授業展開し、教科ごとに分析と対策を検討していく。
- ② 中学におけるQQイングリッシュの計画的実施と時間の延長などの見直しを図る。
- ③ 年間を通した英語の授業研究の実施
- ④ 英検の全員受験を行い、中学3年全員3級、高校卒業までに全員準2級以上取得を目指す。
- ⑤ 年間を通したアクティブラーニング研修会に加え、年1回公開研究会を実施する。
- ⑥ 定期的な教科主任会・学年主任会による学力向上のための情報共有と組織的な取組を行う。
- ⑦ 授業改善のために管理職による授業観察の定例化、保護者等への公開授業の実施。
- ⑧ 授業評価を実施し、教科指導の改善・教員研修に活用する。
- ⑨ 授業力向上のための授業の相互見学と各教科での研究協議の実施。
- ⑩ 中学校における定期的な学力アセスメントを実施し、課題対策に取り組む。

⑪全生徒の個人成績変移カルテの作成と活用に取り組む。

2. 自律心と自主性の育成、他者と協働できる力の育成

- ①全教職員による挨拶の励行、身だしなみ指導、時間厳守指導の日常的な実施
- ②定期的な礼法指導の実施、大妻コタカ先生の言行録による道德教育の徹底
- ③人格形成のための定期的な論語教育の実施
- ④生徒の良さを見出し、励ます取組の実施
- ⑤他の大妻付属校との生徒会交流の実施
- ⑥SNS に対する講話の実施と本校メディアポリシーの徹底した指導を行うため、通信各社によるメディアポリシー研修会を実施する。

3. 生徒の主体的な進路意識の醸成、教員の進路指導力の向上

- ①生徒の学力分析に基づいた進路指導体制の確立
- ②系統性が見えるキャリア教育計画の策定
- ③生徒の進路意識を啓発する大学教授・地域の専門家等の授業・講演会の実施
- ④進路指導部のリーダーシップによるきめ細かな進路指導の継続（進学補講の実施）
- ⑤教員による入試問題の研究
- ⑥計画的で組織的な生徒面談の実施
- ⑦進路の手引き作成と活用、学習の手引き（中学）の作成と活用
- ⑧海外留学・進学を一層進めるための在学中の支援体制と仕組みの整備

4. 全教職員一丸となった積極的な入試広報の実施、本校教育の特色の一層のアピール

- ①地域の小中学校との連携
- ②学校の持つ知的財産の提供
- ③全教職員の目線を合わせた計画的な入試広報行事・活動の実施
- ④計画的な塾訪問の実施と情報収集
- ⑤学校のホームページのこまめな更新と内容のさらなる改善
- ⑥メディアを使った地域への広報活動の実施（電車広告等）
- ⑦特色ある入試制度の実施

5. 教育環境の充実

- ①国際理解教育体制構築・整備
- ②英語力向上指導基盤整備・強化事業
- ③アクティブラーニング指導基盤整備・強化事業
- ④イングリッシュアイランド設置・整備事業

Ⅲ 法人関係

1. 社会的責任

- ①各学校の目的達成及び理念の実現のため、継続的な自己点検・自己評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、各学校の教育研究の水準を保証し向上させ、法人及び各学校に対する社会の信頼を一層確実なものとする。
- ②業務の執行、財産の状況の適正性を確保し、健全な経営に対する社会一般への信頼に応えるため、内部監査室及び会計監査人と連携した監事監査計画を定める。

2. 国際交流の活性化

- ①オックスフォード大学ハートフォードカレッジ「コタカルーム」で、創立者大妻コタカが大切に「おもてなし」の心とともに日本の伝統文化に流れる精神を伝える文化交流イベントを実施することにより「コタカ精神」を世界にアピール・発信するよう努める。

3. 法人組織の管理運営体制の見直し

(1) 事務組織の改組

- ①理事長・常任理事会直轄の「企画・戦略室」を新たに設置する。
企画・戦略室では学院の所管横断的な経営戦略の提案等を通じて、学院の効率的な法人運営及び意思決定の支援を行い、学院の経営戦略や各学校の改革推進を強化する。
- ②総務センターの下に「研究支援室」を新たに設置し、人間生活科学研究所と協働し、科学研究費補助金等の獲得支援を行うなど、大学の研究活動の活性化を推進する。
- ③財務センターの下に「寄付・募金グループ」を新たに設置し、多岐に亘る寄付金（現物寄付を含む）の業務を一元化・専従化することにより、戦略的な寄付募集事業を促進する。
- ④その他、多摩キャンパスから千代田キャンパスの学部移転や事務の効率化のため、組織変更を行う。

(2) 教職員のキャリア形成支援

- ①新規採用職員に対し、社会人として求められる基礎的な仕事力（「常識」「マナー」「仕事の捉え方」「仕事の進め方」「効率よく仕事をするための時間管理」）の強化を目的とした研修を実施する。
- ②SD 活動の連携を結ぶ他大学との連携により、大学業務に必要な知識・スキルを得るための研修（業務別研修）、超過労働による健康障害の防止や組織全体のパフォーマンス向上を目的とした問題解決型の研修を実施する。
- ③教職員を対象としたメンタルヘルス研修会を充実させ、働きやすい職場形成の一助とする。

(3) 業務の効率化

新会計システム、新人事システム等を導入し、Web 申請等により各種諸届を容易にかつ迅速に手続を進める。

(4) 財政のさらなる健全化

- ①新設する「企画・戦略室」において今後の財務状況について検討を開始する。
- ②多岐に亘る寄付金（現物寄付を含む）の業務を「寄付・募金グループ」に一元化・専従化することにより、戦略的な寄付募集事業を促進し、学校法人大妻学院の財政基盤強化を図る。
- ③平成 29 年度に引き続き、学校法人が取り組む教育研究に対し、広く一般の方からの寄付金募集を行う（随時）。

(5) 危機管理体制の構築

災害・事故・事件等危機が発生した場合に、学生の被害や資産の損失、および本学イメージの失墜等最小限に防ぐため、専門のコンサルティング会社の支援を受けながら学院に関する危機管理マニュアル等を作成し、関連規程を整備して危機管理体制を強化する。

(6) 創立 110 周年事業

- ①創立 110 周年を機に学院の中長期計画を策定し、学内外に周知し大妻ブランドのビジョンを明確にする。
- ②各学部、各学校で企画した創立 110 周年のイベントを行うことで、教職員、学生、生徒の大妻の帰属意識と求心力を高める。
- ③110 周年記念事業の実施に向けて、広く一般の方からの寄付金募集を行う（予定募集期間平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 12 月 13 日）。
- ④大妻学院創立 110 周年を迎え、歴史ある本学の PR を以下の広報媒体のなかで計画
 - ・プロモーションムービーの製作
 - ・オリジナルウォーターの製作
 - ・学寮リーフレットの制作

【事業活動収支予算書】

(単位：千円)

| | 平成 28 年度* ¹ | 平成 29 年度* ² | 平成 30 年度 |
|---------------|------------------------|------------------------|--------------|
| 学生生徒等納付金 | 13,249,042 | 13,187,531 | 13,051,211 |
| 手数料 | 374,794 | 365,179 | 377,864 |
| 寄付金 | 132,891 | 132,627 | 142,675 |
| 経常費等補助金 | 2,126,306 | 2,156,798 | 2,168,505 |
| 付随事業収入 | 507,029 | 580,917 | 578,585 |
| 雑収入 | 339,270 | 251,707 | 188,205 |
| 教育活動収入計 | 16,729,332 | 16,674,759 | 16,507,045 |
| 人件費 | 9,853,033 | 9,874,348 | 9,771,887 |
| 教育研究経費 | 5,656,006 | 5,754,152 | 5,571,041 |
| 管理経費 | 1,366,039 | 1,212,493 | 1,248,247 |
| 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動支出計 | 16,875,078 | 16,840,993 | 16,591,175 |
| 教育活動収支差額 | △ 145,746 | △ 166,234 | △ 84,130 |
| 受取利息・配当金 | 117,200 | 238,954 | 126,937 |
| その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収入計 | 117,200 | 238,954 | 126,937 |
| 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 |
| その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外支出計 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収支差額 | 117,200 | 238,954 | 126,937 |
| 経常収支差額 | △ 28,546 | 72,720 | 42,807 |
| 資産売却差額 | 0 | 1,925,645 | 0 |
| その他の特別収入 | 8,850 | 20,143 | 3,959 |
| 特別収入計 | 8,850 | 1,945,788 | 3,959 |
| 資産処分差額 | 0 | 2,257,830 | 0 |
| その他の特別支出 | 0 | 0 | 0 |
| 特別支出計 | 0 | 2,257,830 | 0 |
| 特別収支差額 | 8,850 | △ 312,042 | 3,959 |
| 〔予備費〕 | 250,000 | 250,000 | 250,000 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | △ 269,696 | △ 489,322 | △ 203,234 |
| 基本金組入額合計 | △ 3,905,578 | 0 | △ 715,624 |
| 当年度収支差額 | △ 4,175,274 | △ 489,322 | △ 918,858 |
| 前年度繰越収支差額 | △ 15,576,845 | △ 19,514,269 | △ 14,503,488 |
| 基本金取崩額 | 0 | 5,500,103 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 19,752,119 | △ 14,503,488 | △ 15,422,346 |

(参考)

| | | | |
|---------|------------|------------|------------|
| 事業活動収入計 | 16,855,382 | 18,859,501 | 16,637,941 |
| 事業活動支出計 | 17,125,078 | 19,348,823 | 16,841,175 |

*1 平成 29 年 3 月 28 日更正

*2 平成 30 年 3 月 28 日更正

【平成 30 年度 主なる事業計画予算】

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

| 事業内容 | 目的 | 金額 (税込) |
|--|------------------|---------------|
| 千代田 学生数増加等に伴う家具等追加設置 | 学習環境向上のため | 10,000,000 円 |
| 千代田 大学校舎電気室(A棟B 1 階)受電盤更新工事 | 設備経年劣化のため | 278,640,000 円 |
| 千代田 大学校舎A棟・B棟 電灯盤・動力盤更新工事4年計画(2年目) | 設備経年劣化および機能向上のため | 98,205,000 円 |
| 千代田 大学校舎A棟・B棟 マイクプレート更新工事 | 設備経年劣化のため | 12,204,000 円 |
| 千代田 大学校舎B棟632・631・643・642・745・743調理実習室 ガス台改修工事 | 実習機器等経年劣化のため | 19,068,000 円 |
| 千代田 大学校舎C棟370・373情報処理教室機器更新 | 機器経年劣化のため | 69,728,000 円 |
| 千代田 平成30年度棟間接続工事(図書館棟) | 設備経年劣化および機能向上のため | 70,000,000 円 |
| 千代田 図書館棟AV・情報メディアルーム 機器更新 | 機器経年劣化および機能向上のため | 12,852,000 円 |
| 千代田 中高8階 エアコン更新工事 | 設備経年劣化のため | 49,403,000 円 |
| 千代田 中高9階 エアコン更新工事 | 設備経年劣化のため | 53,192,000 円 |
| 千代田 中高第2コンピュータ室 機器更新 | 機器経年劣化のため | 24,589,000 円 |
| 千代田 中高生徒用タブレットの運用管理に関わる諸費用 | ICT化・学習環境向上のため | 10,260,000 円 |
| 千代田・多摩 証明書自動発行機本体(パピルスメイト)更新 | 設備経年劣化のため | 50,976,000 円 |
| 千代田・多摩 文書管理システム更新 | ライセンス更新のため | 13,361,000 円 |
| 千代田・多摩 平成30年度無線LAN導入 | ICT化・学習環境向上のため | 18,498,000 円 |
| 多摩 4号館情報処理自習室 機器更新 | 機器経年劣化のため | 29,160,000 円 |
| 多摩 6号館3階 改修工事 | 学習環境整備のため | 150,393,000 円 |
| 多摩 高圧ケーブル更新工事(エネルギーセンター・中高間) | 設備経年劣化のため | 16,740,000 円 |
| 多摩 中高第1期校舎受変電設備更新工事 | 設備経年劣化のため | 88,452,000 円 |
| 多摩 中高コンピュータ教室更新及びネットワーク設備再構築(第二次計画) | 機器経年劣化および機能向上のため | 45,291,000 円 |
| 多摩 中高職員室教員個人PC更新 | 機器経年劣化のため | 10,523,000 円 |
| 千代田・多摩・中野・嵐山 危機管理体制強化支援コンサルティング(全体計画・危機管理マニュアル作成、訓練) | 危機管理対応のため | 10,006,000 円 |
| 千代田・多摩・中野・嵐山 改修工事に関するコンサルティング業務 | 技術支援およびコスト削減のため | 21,384,000 円 |
| 千代田・多摩・中野・嵐山 学校法人大妻学院 創立110周年記念事業 | 110周年記念事業 | 38,200,000 円 |
| 千代田・多摩・中野・嵐山 (新) 事務システム更新(平成29年度からの継続事業) | 事務システム更新のため | 128,100,000 円 |
| 千代田・多摩・中野・嵐山 (新) 事務システム更新後の運用費用 | 事務システム更新に伴う運用のため | 25,700,000 円 |

計 1,354,925,000 円